

令和7年度連携特別展

「まつど×とくがわ—昭武・武定の生きた明治・大正・昭和—」開催報告

1. 開催概要

1. 名 称 令和 7 年度連携特別展「まつど×とくがわ—昭武・武定の生きた明治・大正・昭和—」
2. 会 期 令和 7 年 7 月 13 日（土）～令和 7 年 8 月 31 日（日）（開館日数：44 日）
3. 会 場 戸定歴史館／市立博物館 企画展示室
4. 主 催 戸定歴史館・市立博物館
5. 観覧料 戸定歴史館 一般 150 円 高大生 100 円
※戸定邸・戸定歴史館共通入館券
一般 320 円 高大生 160 円
市立博物館 一般 150 円 高大生 100 円
※連携特別・常設展共通観覧券
一般 370 円 高大生 180 円
3 館共通観覧券 一般 620 円 高大生 300 円 ※ネックストラップ付
6. 趣 旨 水戸徳川家最後の藩主徳川昭武は、松戸の戸定ヶ丘に邸宅を建設し、明治 17 年（1884）に移り住みます。昭武・武定（昭武 2 男、松戸徳川家初代当主）をはじめとする戸定邸の人びとは、周辺地域と関わり合いながら、新しい環境での生活を営みました。本展では、戸定歴史館・市立博物館の 2 館がそれぞれの所蔵資料と視点で、戸定邸を取り巻く松戸市域の明治・大正・昭和を見つめ直します。戸定歴史館は、「地域に生きた華族」の視点から、松戸町や近隣農村の人びととの関わりに注目し、市立博物館では「華族の生きた地域」の視点から、昭武がカメラに収めた市域の原風景に迫ります。また、関連企画として戸定歴史館・戸定邸・博物館等にスタンプラリーも設置します。以上のことから、本連携特別展は、市の歴史や歴史施設を多くの方々知ってもらう機会を提供し、郷土への愛着意識の醸成の一助となるよう開催するものです。
7. 後 援 （公財）松戸市文化振興財団、（一社）松戸市観光協会、北総線沿線地域活性化協議会、チバテレ
8. 協 力 京成電鉄株式会社、流鉄株式会社
9. 担 当 戸定歴史館 大沼 大晟／松戸市立博物館 林 幸太郎
10. 来場者 【博物館】3,683 人／【戸定】2,679 人／【合計】6,362 人
※会期中入館者総数：【博物館】7,545 人／【戸定】6,443 人／【合計】13,988 人
①3 館共通券販売数：【博物館】348 人／【戸定】284 人／【合計】632 人
（内 3 館共通券中学生以下：【博物館】155 人／【戸定】92 人／【合計】247 人）
②3 館共通券招待券：【博物館】328 人／【戸定】300 人／【合計】628 人

2. 展示構成

松戸市立博物館（担当：林）

《プロローグ》 徳川昭武・武定と戸定邸

戸定邸移住にいたるまでの徳川昭武の経歴および徳川武定の経歴と「松戸徳川家」の成立を紹介した。導入として、全体の基礎資料となる「戸定邸日誌」と明治期の写真の実物を展示した。



《テーマ1：松戸町の人たちと徳川家のおつきあい》 昭武・武定のくらしした松戸町

松井天山が描いた「松戸町鳥瞰図」と「戸定邸日記」をもとに、江戸時代以来の“商いの町”に加え、東葛飾郡治の中心として“役所の町”となった明治中期～昭和戦前期の松戸町の街並みを紹介した。個別トピックとして、水戸徳川家とのつながりと明治期の郡治の様子を示す「本陣と東葛飾郡役所」、徳川家も支援した松戸町のインフラ整備の一例である「郵便局のお仕事」、徳川家が土地を払い下げて開校した松戸中学校の歴史を紹介する「まぼろしの中学校」などを取り上げた。



《テーマ2：自然環境と暮らし》 昭武とめぐる！ “まつど” の農村

昭武が撮影した市内農家の写真をもとに農具・漁具の実物を展示し、松戸市の原風景である農村の暮らしを紹介した。個別トピックとして、昭武の撮影写真で農事暦を伝える「米づくりの1年」、農家の副業として家計を支えた漁業を紹介する「江戸川・坂川のめぐみ」を取り上げた。



《テーマ3：結びつく“まつど”と徳川家》“まつど”の梨づくりと戸定邸

農業指導のため戸定邸に訪れていた「松戸覚之助」を切り口に、松戸市の名産品である梨づくりの歴史を紹介した。個別トピックとして、高塚新田の岡田家の日記をもとに大正～昭和戦前期の梨農家の1年を紹介した「高塚新田の梨づくり」、戸定邸に女中として勤務した岡田きよ（上記岡田家出身）の足跡を示す「戸定邸ではたらく！」、近年ご子孫から寄託・借用を受けた表札・カタログ・賞状類を一挙に展示した「松戸覚之助と錦果園」を取り上げた。



《エピローグ》それからとこれからの戸定邸

昭和26（1951）年における徳川武定から松戸市への戸定邸・庭園の寄贈、松戸市による公民館としての利活用、文化財保護の観点に立った保存・活用の取り組みなど、昭和戦後から現在にいたる戸定邸の歴史と展望をタペストリーで紹介した。



「果物カタログを
見てみよう」コーナー



戸定歴史館（担当：大沼）

《プロローグ》 徳川昭武・武定と戸定邸

徳川昭武および徳川武定の経歴と「松戸徳川家」の成立を紹介した。また、戸定邸建設前の江戸時代の戸定ヶ丘について、博物館蔵「御鹿狩」資料および地租改正資料を用いて紹介した。



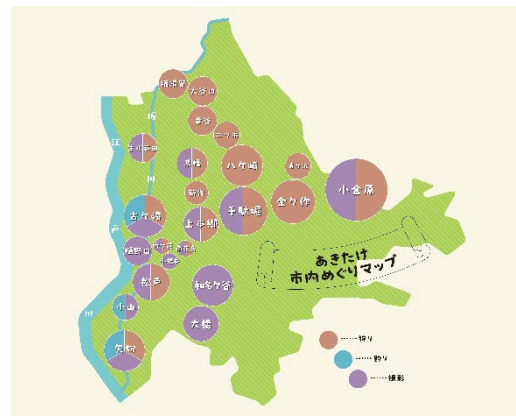
《テーマ1：松戸町の人たちと徳川家のおつきあい》 戸定邸へ行こう

戸定邸を訪ねる松戸町の有力者たちや生活を支える出入りの商人・職人など、松戸河岸の材木問屋安蒜権左衛門（初代松戸町長）を中心に、戸定邸と松戸町の人びとの交流を紹介した。



《テーマ2：自然環境と暮らし》 “まつど” で狩って！釣って！撮って！

昭武が好んだ狩猟・釣り・写真撮影に注目し、「遊猟獲物扣」「川魚扣」や写真の展示を通じて、明治時代の市域の生態系と華族の趣味を紹介した。



《テーマ3：結びつく“まつど”と徳川家》徳川家とあゆむ“まつど”

「戸定邸日誌」や会計帳簿類を展示し、松戸高等小学校への新築費寄付や植樹、常磐線開通のための土地売却、松戸神社への祭礼費や橋梁架け替え費用の寄付など、松戸町に対する徳川昭武・武定の援助を紹介した。



《エピローグ》それからとこれからの戸定邸

昭和戦後から現在にいたる戸定邸の歴史と展望を紹介した。昭和期の徳川家と地域との関わりを示す資料として、戸定邸近傍の酒屋に下賜された百人一首、徳川家の買い物が記録された食料品店の売掛帳を初めて展示した。



3. 印刷物（2館合計）

1. チラシ A4版：40,000枚（4色／両面）
2. ポスター B1版：5枚（4色）
 B2版：400枚（4色）
 A3版：2,000枚（4色）
 A4版：2,000枚（4色） ※A3・A4は町会・自治会へ頒布用
3. パンフレット B5版：7,000部（4色／オフセット印刷／20頁）
4. 観覧券 10,300枚
 一般個人／高大個人／共通券（一般・高大）／3館共通券（一般・高大・小中）
 ／招待券
5. 展示資料一覧 館内印刷（A4版／4頁／1色）展示会場で配布

4. 物品（2館合計）

1. トートバッグ（スタンプラリー景品）：3,000枚
2. ネックストラップ（3館共通券特典）：2,000本
3. グッズ ①クリアファイル（150円）：1000枚
②アクリルキーホルダー（500円）：200個

5. 関連企画

（1）歴史を語る②

1. 演 題 「維新の草莽金原忠蔵とその慰霊・顕彰」
2. 講 師 岩立将史氏（学習院大学史料館助教）
3. 日 時 令和7年8月10日（日）13:00～15:00
4. 会 場 市立博物館 講堂
5. 参加人数 56名

（2）学芸員講演会

1. 演 題 「戸定邸からみる“まつど”の近代」
2. 講 師 大沼大晟・林幸太郎
3. 日 時 令和7年7月27日（日）13:00～15:00
4. 会 場 市立博物館 講堂
4. 参加人数 65名

（3）ひろがれ！こどものまち～かめの地図と、梨の木のしたで！～

1. 講 師 聖徳大学短期大学部保育科 まつどソング研究グループ
（指導教員：春日保人氏・金玟志氏）
2. 日 時 [戸定歴史館] 令和7年8月10日（日）10:30～12:30
[市立博物館] 令和7年8月11日（月・祝）10:30～12:30
3. 参加人数 [戸定歴史館] 8名（子ども4名・保護者4名）
[市立博物館] 31名（子ども14名・保護者17名）
4. 内 容 ①市域を巡った徳川昭武の足跡をイメージして、松戸市の形を模した“カメの地図”
の上に子どもたちが手作りしたオリジナルの家や建物を配置する“まちづくり”
②松戸市の名産「梨」をテーマに、手あそび歌、折り紙を用いたオリジナルの梨の
制作など、五感で松戸市の魅力に触れる体験。



(4) オリジナル手ぬぐいを作ろう！

1. 講師 鄙里沙織氏（木エアーティスト・東京藝術大学美術学部テクニカルインストラクター）
2. 日時 [市立博物館] 令和7年8月16日（土）13:30～15:30
[戸定歴史館] 令和7年8月17日（日）13:30～15:30
3. 参加人数 [戸定歴史館] 7組／[市立博物館] 8組（子ども9名・保護者6名）
4. 内容 市内在住の鄙里氏に作成していただいた連携特別展の展示資料をモチーフとしたスタンプを用いて、オリジナルの手ぬぐいを制作した。あわせて、学芸員からスタンプのモチーフとなった資料の解説をおこなった。



(5) 「まつどの梨」を味わおう！（松戸市産の梨の出張販売）

1. 販売 松戸市観光梨園組合連合会、松戸市観光協会
2. 日時 令和7年8月30日（土）11:00～16:00
3. 会場 市立博物館 エントランス
4. 売上 「まつどの梨」（800円／1袋〔1kg〕）×101袋
高春園の梨ジャム（700円）×4点
高春園のキウイジャム（550円）×4点
治園の梨ジャム・キウイジャム（各600円）×5点

合計 88,800 円



6. 成果と課題

(1) 全体

- ▶【成果①】戸定歴史館との連携事業の端緒を開けた
 - ・両館の研究蓄積（「戸定邸日誌」の解説／市内古文書の分析など）を共有し、展示に反映することができた。
 - 徳川家・戸定邸を“松戸市の近現代史”（＝“まつど”の人々の営みと地続き）に位置付けるという目標については、一定の成果を得たと考える。
 - ※「市立博物館で昭武の姿を見ることが出来るとは思わなかった」（アンケートより）
 - ・予算配分や観覧券収入をはじめとした会計上の課題をクリアするなど、庶務面でも各種の前例を作ることができた。
- ▶【成果②】新規の連携先を開拓し、関連ワークショップを開催した。
 - ・戸定歴史館の連携蓄積を市立博物館に還元するかたちで、聖徳大学短期大学部保育科（まつどソング研究グループ）と鄙里沙織氏のワークショップを開催した。
 - ・聞き取り調査をきっかけに松戸市観光梨園組合連合会の協力を得て、梨の出張販売をおこなうことができた。また、組合員に対して資料（梨栽培道具）所蔵の有無も呼びかけていただき、提供された資料を実際に展示した。市域の果樹・蔬菜の調査を実施していくうえでも、引き続き協力関係を築きたい。
- ▶【課題①】観覧者数は想定を下回り、十分な費用対効果を得ることはできなかった。
 - ・ターゲット層（小学生4年生～中学生）に対する効果的な事前広報ができなかった。
 - 小中学校への出前による展示宣伝などを検討。
 - ・小中学生だけでなく幅広い世代の来館を狙った結果、ターゲットが曖昧な広報となった。
 - ・3館共通券の購入を促す工夫（他2館の宣伝など）が不十分であった。
 - ※酷暑による夏季の公園利用者減少の流れに、どのように対応するかも今後の課題。

(2) 展示内容

- ▶【成果③】「昭武・武定ゆかりの松戸マップ」（松井天山鳥瞰図の加工）、「昭武の市内めぐりマップ」は、身近な地域の歴史や現代との比較という点で、来館者同士のコミュニケーションを促進した。
- ▶【課題②】基礎資料である「戸定邸日誌」の見せ方が不親切であった。
 - 翻刻および現代語訳の必要性／簡素な「日誌」記述を補足する付帯情報を示せなかった
 - 文書資料の展示に対する工夫が欠けていた。
- ▶【課題③】平坦な展示構成となり、来館者の関心を継続させることもできなかった。
 - レイアウト・デザイン上のメリハリ + 問いかけや動作など能動的な参加を促す工夫